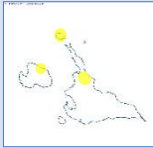


語を超えた領域で実現される語アクセント：南琉球宮古語池間方言の事例

言語変異研究領域 五十嵐 陽介

要旨

- 南琉球宮古語池間方言の3種類のアクセントの違いは、語を単独で発音しても、助詞を付けて発音しても、観察できない。
- 池間方言のアクセントは語に2拍以上の助詞と述語を後続させると、もっとも明瞭に観察できる。
- 3種類のアクセントは語の外側で実現される声の高さで区別される。
- 語を超えて実現されるアクセントを正確にとらえるためには音響分析が有効。



- 共通語にはアクセント(語ごとにきまっている声の高さ)がある。

「飴」



「雨」



- 語を単独で発音しても違いが分からないアクセントがある。

「端」



「橋」



- 助詞をつけるとアクセントの違いがわかる。

「端-が」



「橋-が」



- 池間方言にもアクセントがある。

「海」



「犬」



- 語を単独で発音しても違いが分からないアクセントがある。

「西」



「錐」

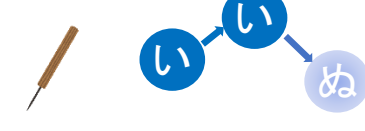


- 1拍の助詞をつけても、なお違いがわからない。

「西-が」



「錐-が」

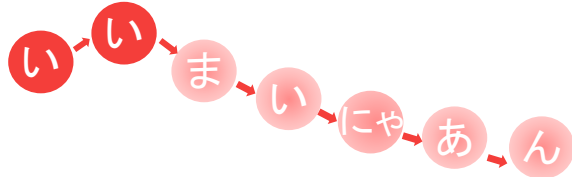


- 池間方言のアクセントの違いは、語に2拍以上の助詞と述語を後続させると観察できる。

「西-もない」



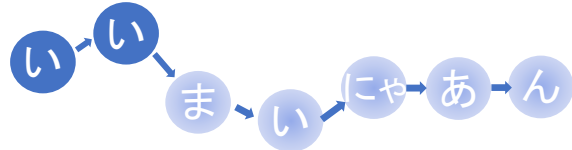
A型



「錐-もない」



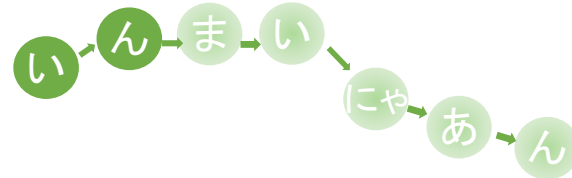
B型



「海-もない」



C型



- 文全体にわたって変化する声の高さを耳で聞いて区別するのは難しい。

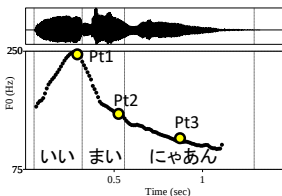


ばん たが すま んな いん まい にゃあん

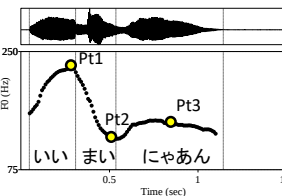


- 録音した音声を音響分析するのが有効。

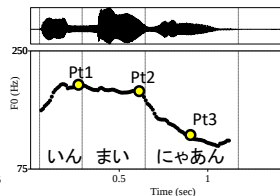
A型



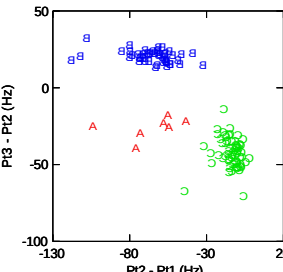
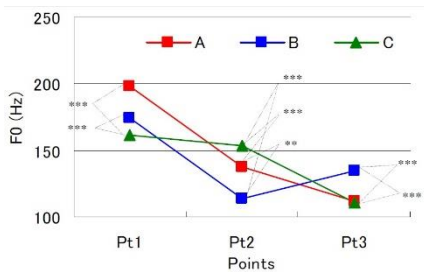
B型



C型



- 多くの語を対象とした定量分析をして一般性を確認。



参考文献

- 五十嵐陽介 (2016) 「南琉球宮古語池間方言・多良間方言の韻律構造」『言語研究』150, 33-57.
- Igarashi, Yosuke, Yukinori Takubo, Yuka Hayashi, and Tomoyuki Kubo (2018) Tonal neutralization in the Ikema dialect of Miyako Ryukyuan. In: Haruo Kubozono and Mikio Giriko (eds.) *Tonal Change and Neutralization*, pp. 81-128, Berlin: Mouton De Gruyter.
- 五十嵐陽介、田窪行則、林由華、ペーラルトマ、久保智之 (2012) 「琉球宮古語池間方言のアクセント体系は三型であって二型ではない」『音声研究』16(1), 134-148.
- Igarashi, Yosuke, Yukinori Takubo, Yuka Hayashi, and Tomoyuki Kubo (2011) How many tonal contrasts in Ikema Ryukyuan?. *Proceedings of the 17th International Congress of Phonetic Sciences (ICPhS XVII 2011)*, 930-933, Hong Kong: Hong Kong Convention and Exhibition Center.